

■ 中課題2 イノシシの生息個体数推定技術と効率的な個体数調整技術の開発

農研機構 中央農業総合研究センター 仲谷 淳（中課題責任者）

中課題の概要

個体数調整によるイノシシ被害対策の計画立案に必要な、個体数の推定技術、個体数の増減に関わる産仔数や妊娠率といった個体群パラメータの解明、また、被害発生の予測技術の開発を行いました。個体数は箱ワナでの捕獲率を調べることで、推定します。また、個体群パラメータの解明からは、生息数の概数がイノシシ定着の経過年数からも推定できる可能性も明らかとなりました。生息地を拡大している千葉県では、高精度な被害の発生予測ができました。

効果的な個体数調整を行うため、箱ワナでの捕獲効率が高く、成獣捕獲を容易にする技術を開発し、また、安全で迅速に捕獲個体を処理する小型ケージを開発しました。さらに、被害発生期に捕獲されるイノシシを肉資源として利用促進するために、肉の熟成過程等を調べ、食味の高い肉を提供する技術を開発しました。

これらの成果は個別で活用できますが、相互に関連している事柄も多く、地域の獣害対策では総合的に活用すると、さらに効果的です。また、被害対策の計画や評価には、継続して科学的な資料を積み重ねてゆくことが大切です。

イノシシの生息個体数推定技術と効率的な個体数調整技術の開発

